

全国土を考える会 2018年後半の活動報告

各地区土を考える会が 研修会や忘年会を開催

土を考える会、あるいは有機物循環農法、プラウやレベラー、乾田直播などをきっかけに知り合った仲間が一堂に集い、顔を合わせて近況を報告し合う。2018年度の各地区の活動では、その原点を確認する会員の姿が見られた。役員らが中心になり、企画を立てて、参集を呼びかける。案内を郵送し、電話で誘い、FAXでとりまとめる。SNS全盛の時代にこうした手間は面倒だが、多様な年代の会員への連絡手段を一本化するのには難しい。だからこそ、地域や作目を超えた情報を得られると、集まっているのだ。

とはいえ、現場で会員らに話を聞いてみると、近年の会の運営には会員らの要望からかけ離れていたという不満の声も少なくない。全国組織が発足して以降にその傾向が強まっていたようだ。そうした不満が募るのは、地域で先進的な取り組みをしている農業経営者が多く集まる会有一些証に他ならない。多くの会員が事務局を長年担ってきたスガノ農機との関係修復を願うのは、営業マンが仲間をつないでくれていたからである。会員からの要請を受けて、地区ごとに再び協力を仰ぐ形をとりつ

つあるようだ。

8月以降に開催した各地区土を考える会の夏期・秋期研修会、忘年会について、まとめて報告する。

●中国四国土を考える会（藪内孝博会長）は、8月20～21日に夏期研修会を島根県で開催。『土壤構造の多様性を知り、それを生かした栽培技術を学ぶ』と題して、(独)農研機構・農業環境変動研究センターの大倉利明氏を招へいし、カンドーファーム（松江市）、勝部農産（出雲市）の2カ所の圃場で土壌モニタリングを採用し、ライブ解説を行なった。そのほか砕土・整地・播種の作業機の実演、GPSの技術解説など盛り沢山の研修会だった。

●九州沖縄土を考える会（手島健次郎会長）は、9月12～13日に夏期研修会を熊本県で開催。ヤンマーアグリジャパン(株)九州支社のアグリサポートセンターにて「ICT農業」の説明を聞き、「これからの九州沖縄土を考える会の今後について」をテーマに、会員らがディスカッションを行なった。騒動後初めて集まる会員も多く、抱えていたもどかしい思いを発散する場となった。

●北陸東海近畿土を考える会（前田喜芳会長）は11月21日に秋期研修会を開催。滋賀県近江八幡市のイカリファームが新たに建設したライスセ

ンターを見学し、新型スタブルカルチャやゼルプラウに搭載する播種機の実演などを実施した。（なお、8月に予定していた夏期研修会は台風接近により中止）

●関東甲信越土を考える会（黒川義治会長）は11月26日に群馬県前橋市で忘年会を開催。今年度は研修会の開催を見送ったものの、会の原点は仲間が集まって語らうことだという役員らの思いから企画された。これまでに比べて小規模ではあったものの熱気に満ちた会となった。

冬季のイベント案内

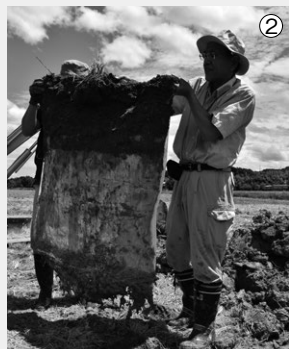
19年が明けても、関連するイベントは盛り沢山である。参加希望、あるいは関心のある方は編集部まで。

●第8回全国土を考える会総会
1月29日（火）に滋賀県で開催。翌30日になるシオールファームの視察を予定。

●第11回雪国直播サミット
技術向上セミナー「CASINOROYALE」北海道の乾直王が集う一日限りのカジノが札幌にOPEN」を1月22日（火）に北海道札幌市で開催。

●北海道土を考える会冬期研修会
2月4日（月）に北海道音更町で「大規模畑作で期待されるロボットトラクタ」をテーマに開催。

中国四国土を考える会 夏期研修会 in 島根



①カンドーファーム（松江市）の圃場で採取したモノリス。乾くと縮み、水を含むと膨らむ性質の「スメクタイト」という粘土が多い。CECが高く、保水力・保肥力がある。背後にある山の地質によるそうだ ②勝部農産（出雲市）の圃場で採取したモノリス。陶器づくりに適した「カオリナイト」という粘土が多く、間隙が少ない構造を持つ。①の土壌とはもともととの地力、肥料の保ち方、効き方が違う ③藪内孝博会長曰く、「土を考えているぞー！」という良い会になってきたとのこと。集合写真からもその雰囲気がかがえる



④はコンスキルドのDELTA2.5m幅仕様（2列のチゼル+ディスク）、⑤はレムケンのAchat70（3列のチゼル）、⑥はマスキオのディスクハロー VELOCE（ディスクが左右に混和）、⑦はレムケンのヘリオドール+APVのエアシーダー ⑧はアルベゴのタテ爪のロータリー（2.5m幅）それぞれ特徴が異なるので、目的に応じた選択が必要だ ⑨GPSに関する講義は株式会社アグ・コントロールシステムの広田健一氏による

北陸東海近畿土を考える会 秋期研修会 in 滋賀



⑩イカリファームの新しいライスセンター。学校給食向けに最新鋭の制御装置が導入されている ⑪設備の説明をする井狩篤士氏 ⑫実演されたスガノ農機の新型スタブルカルチ。詰まらないという評価が上がっている ⑬北陸東海近畿の各県から参集した参加者は夜遅くまで話らいの時間を過ごした